



安全衛生

あれこれ

42

増田労働衛生コンサルタント事務所

所長 増田稔久

「ゼロ災運動」が始まって50年！

「愛(合)言葉」「ご安全に！」は70年！

今年も全国労働安全週間に
向けて、準備期間が始まりま
した。今回のスローガンは

「高める意識と安全行動 築

こうみんなのゼロ災職場」

です。このスローガンの下、
各事業場で有意義な活動が展
開されることを願っています。

さて、スローガンで示され

たキーワード「ゼロ災」は、
昭和48年(1973年)に誕
生しました。当時アメリカで
行われていたキャンペーン
「Zero in safety」(安全に照準を合わせ
よ)に啓発され、中央労働災
害防止協会(以下、中災防)
の発案により始まったのが

(別掲1)

ゼロ災運動基本理念3原則

1、ゼロの原則

単に死亡災害・休業災害だけがな
ければよいという考えではなく、職場や
作業に潜むすべての危険を発見・把
握・解決し、根底から労働災害をゼロ
にしてゆこうという考え方。



2、先取りの原則

究極の目標としてのゼロ災害・ゼロ疾病の職場を
実現するために、事故・災害が起こる前に、職場や作業に
ひそむ危険の芽を摘み取り、安全と健康(労働衛生)を
先取りすること。

3、参加の原則

職場や作業にひそむ危険を発見・把握・解決するた
めに、全員が一致協力してそれぞれの立場・持ち場で自主
的、自発的にヤル気で問題解決行動を実践すること。

(別掲2)

ゼロ災運動推進3本柱

1、トップの経営姿勢

安全衛生は、まずトップのゼロ災
害・ゼロ疾病への厳しい経営姿勢に
始まる。「働く人一人ひとりが大事だ」、
「一人もケガ人は出さない」というト
ップの人間尊重の決意から運動は出発。



2、ライン化の徹底

安全衛生を推進するには、管理監督者(ライン)が作
業の中に安全衛生を一体に組み込んで率先垂範して
実践することが不可欠。ラインによる安全衛生管理の
徹底が第二の柱。

3、職場自主活動の活発化

一人ひとりが危ないことを危ないと気付き、自主的、自
発的にヤル気で安全な行動をするような実践活動がな
ければ、職場の日々の安全を確保することはできない。

「ゼロ災害全員参加運動」で、
略称として「ゼロ災運動」や
「ゼロ災」が使われるように

「ゼロ災害3原則」として
別掲2「推進3本柱」として
示すと共に、具体的な活動を
実践するため、危険予知訓練
(KYT)やリスクアセスメ
ント研修会等を提供していま

ところで、製鉄会社に電話
をすると「ご安全に！ ○○
会社の○○課です」などと返
事がありません。「ご安全
に！」は、製造業・建設業の

なりました。職場で「ゼロ災
でいこう ヨシ！」と指差し
唱和を実践されている方も多
いでしょう。
ゼロ災運動は、人間尊重を
基本理念とし、全員参加によ
る先取りの労働災害防止活動
により、ゼロ災職場を築こう
とする運動です。この実現に
は職場で働く人々の自主的な
活動が必要で、中災防では、
ゼロ災運動の基本的な考え方
を別掲1「基本理念3原則」、

その際に「ゼロ災害全員参加
運動の推進決議」が1万2千
人も集った全体集会で採択さ
れました。今年、ちょうど50
周年、くしくも9月に名古屋
でその大会が開催されます。
節目を迎えた名古屋大会が榮
しみです。

現場での安全意識の高揚・喚
起するために、挨拶の掛け言
葉として広まった安全活動で
す。由来は、1600年代に
廻りドイツの炭鉱夫たちの間
で使われていた「ご無事で！
(Glück auf)」グ
リュックアウフという挨拶と
されています。日本では昭和
28年に住友金属工業(現日本
製鉄株)で「ご安全に！」が
使われ、その後鉄鋼業界を中
心に広まって安全の意識高揚
が図られています。こちらは
70周年を迎えました。
週間スローガンでは「高め
る意識」と記されています。
そこで皆さんに提案です。週
間中に「ご安全に！」の掛け
声運動をやってみませんか？
「ご安全に！ お早うござい
ます」「ご安全に！ お疲れ
様です」などいつもの挨拶
に「ご安全に！」を加えるの
です。安全の意識が高まって
ゼロ災職場の輪が広がってい
けば「ご安全に！」は魔法の
愛(合)言葉となるでしょう。
※本稿の内容や資料は、ゼ
ロ災運動のご本家である中災
防のホームページと書籍等か
ら引用しました。